

特別支援教育 1・2・3・5 学年 国語科学習指導案

指導者 中 村 梓

I 単元名

「ひつような じょうほうを でんわできこう つたえよう」(話すこと・聞くこと)

II 単元の指導構想

1 単元について

本学級は、1年生1名、2年生1名、3年生2名、5年生1名の計5名で編成されている。
本学級に在籍する子どもたちの「話すこと・聞くこと」にかかわる実態について、担任及び子どもたちの学習にかかわる教職員、保護者による日常観察、本校特別支援教育学団の「行動特性チェックリスト」、「国語科指導系統表」、各種検査から、次のように捉えた。

子ども		「話すこと・聞くこと」にかかわる実態 (日常観察)		
		話すことにかかわる実態	聞くことにかかわる実態	話し合いにかかわる実態
A (1年)	特	話すことが好きで、積極的に手を挙げて発言する。突然の質問に答えるときや、初めてあった人と話す際に吃音が出る。吃音が出ても最後まで話そうとする。一つ一つの言葉をゆっくり話す。話したいことがたくさんあるときには、思いついた単語から順番に話す。自分の前に話した人の話し方と同じように話す。質問されたことは、別のことを話すことがある。	話している人を見て聞くことができる。2つの指示を聞いて動くことができる。答えを聞くために質問する。	周りの発言を聞いている。自分の考えを話そうとする。
	交	挨拶をすると大きな声で挨拶を返す。親しい友達に挨拶をする。	先生や友達の色を見て話を聞く。友だちからの問いかけに頷いたり、笑顔で返したりする。指示後、周りの動きを見ながら行動する	話し合いの経験がない。
	保	言葉が不明瞭なため、伝わらないとイライラする。疲れ、緊張等で吃音が出る。	言語をある程度理解できる。	話し合いの経験があまりない。
B (2年)	特	積極的に他者に話しかける。集団の中でも、手を挙げて発言する。ゆっくり言葉を選んで話す。話したいことが伝わらないときには、言葉を言い換えて伝えようとする。主語を意識するが、述語とつながっていないことがある。語彙が少なく、伝えたい思いを文章で話すことが課題。	二つ以上の指示を聞いて行動するのが難しい。良い姿勢で話を聞こうとするが持続しない。話を聞いて、気になったことを質問することができる。	話し合いのテーマにあった自分の考えを発表することができる。
	交	丁寧な言葉づかいで、一生懸命話そうとする。挨拶を大きな声で返す。	落ち着いて話を聞くことができる。	自分の考えをもつことができる。
	保	言葉の発音(特にさ行)が不明瞭。自分の言葉や発音、話し方等他との違いに気づいている。ゆっくり話したり、舌の動きを意識して話したりと、自分なりに相手に伝える努力をしている。定期的に養育センターで言語訓練をしている。話す機会を積み重ね、訓練したことを意識して話すようになる。	反応がなかったり、聞き返しても黙っていたりすることがある。短い言葉でゆっくり話すと、親の伝えたいことを理解できる。	話題により、自分の考えを伝えることができる。
C (3年)	特	教師や友達に質問や要求をすることができる。話す内容が思い浮かばずに泣くことがあるが、事前に教師と内容を確認したり、原稿を見たりすることで、自信を持って話すことができる。教師と一緒に話したいことの組み立てを考えられる。相手に顔を近づけて話す。場面に合った話し方をすることができる。	相手からの答えを聞くことで安心する。短い時間であれば、内容に注意して話を聞くことができる。語彙が少なく、話の意味を理解していないことがある。たくさんの情報を整理して聞くことができず、何度も繰り返し聞く。	積極的に挙手をして話す。友達の考えを聞いて答えることができる。
	交	教師に対して質問や要求をすることができる。友達と自然に話することができる。	静かに話を聞いている。	友達の意見を聞くことができる。
	保	思いを話せず泣いたり暴れたりする。気持ちが落ち着くと自分の気持ちを話すことができる。	話の内容を勘違いして聞いていることがある。	自分の要求を通そうとすることがある。
D (3年)	特	授業後の感想を2語程度で話す。自分の気持ちを伝えるために、言葉を整理して話すことができず、イライラすることがある。言葉の使い方を誤ることがある。口の開きが小さく、しっかり発音できないことがある。親しい人にはよく話すが、慣れていない人と話すときや、みんなの前で話す際には緊張して、自分の思いをすべて伝えられないことがある。	いくつかの話を整理して聞くことができない。話の意図をつかむことができない。二つ以上の指示を聞いて動くことができない。話を聞いて、気になったことを聞く。話の途中で気になったことを解決するまでは、その後の話が頭に入らない。	自分の意見を話すことができる。友達の意見と関連させることは課題。
	交	挨拶を返すが、目を合わせず小さい声とトーンで話す。	落ち着いて話を聞いている。	話し合いの経験が少ない。
	保	話を聞いている途中で話すことがあり、めりはりが少ない。静かにしなければいけない場所でも大声で話す。	親の説明を聞いても、どうして怒られているのかを理解できない。	話し合いの経験が少ない。
E (5年)	特	授業後の感想を3語程度で話す。指示語を使って話すことが多い。自分の考えがあっても、文章にして伝えられない。自分の考えを伝えるために、頭の中で文章を組み立てることができるが、時間がかかる。慣れていない人と話すときは緊張する。大きい声を出すことに抵抗がある。	良い姿勢で話を聞くことができる。二つ以上の指示を聞いて動くことができない。いくつかの話を整理して聞けない。話を聞いて質問する。交流学級の朝の会での連絡を聞いて、担任に伝える。	落ち着いて話を聞き、自分の考えを話すことができる。
	交	友達からの問いかけに簡単な言葉で答える。挨拶を笑顔で返す。みんなの前で、行事の感想を堂々と話す。	話している人を見て聞く。	友達の考えを聞いている。
	保	家ではあまり自分の事を話さない。	落ち着いて話を聞く。	話し合いの経験が少ない。

行動特性チェックリスト

領域	下位項目	A	B	C	D	E	具体内容	
学びの姿勢	聴覚選択	2	2	3	2	3	1 物音（重要でない細部）などに注意が逸れてしまい、教師の支援により一時的に喚起できる。 2 物音（重要でない細部）などに注意が逸れてしまうが、教師の支援により喚起できる。 3 物音（重要でない細部）などに注意が逸れるが、課題への影響は少ない。 4 物音（重要でない細部）などに注意が逸れずに、課題を捉えることができる。	
	視覚選択	2	2	3	2	3	1 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れてしまい、教師の支援により一時的に喚起できる。 2 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れてしまうが、教師の支援により喚起できる。 3 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れるが、課題への影響は少ない。 4 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れずに、課題を捉えることができる。	
	聴覚的深さ	2	2	2	2	2	1 聞いたことをすぐに忘れてしまう。 2 聞いたことの一部は覚えているものの、重要情報の欠落や誤選択が見られる。 3 聞いたことを一時的に覚えていることができる。 4 聞いたことを一時的・長期的に覚えていることができる。	
	視覚的深さ	2	2	2	3	2	1 見たことをすぐに忘れてしまう。 2 見たことの一部は覚えているものの、重要情報の欠落や誤選択が見られる。 3 見たことを一時的に覚えていることができる。 4 見たことを一時的・長期的に覚えていることができる。	
	ペース	2	2	3	2	3	1 教師の支援の有無にかかわらず、せつちや過度に遅い取り組みができる。 2 教師の支援により、活動のペースを一時的に修正することができる。 3 教師の支援により、安定した活動のペースにすることができる。 4 常に安定したペースで取り組むことができる。	
	自力	2	2	2	2	3	1 活動への集中のために、教師の支援が常に必要である。 2 教師の支援によって、様々な活動に集中して取り組むことができる。 3 一時的に教師から離れて、様々な活動に集中して取り組むことができる。 4 自ら様々な活動に集中して取り組むことができる。	
	規則性	2	2	3	1	3	1 教師の支援を受けながら決まりきった状況への対応をすることができる。 2 友達とともに、決まりきった状況へ正確に対応することができる。 3 決まりきった状況へ誤りがあるものの対応をすることができる。 4 決まりきった状況へ正確に対応することができる。	
	困難場面への緊張	2	2	1	2	2	1 困難・葛藤場面で緊張し、行動に反映する。 2 困難・葛藤場面で緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 困難・葛藤場面で緊張するが、行動に反映しない。 4 困難・葛藤場面で緊張しない。	
	集団への緊張	2	2	2	2	3	1 集団内で緊張し、行動に反映する。 2 集団内で緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 集団内で緊張するが、行動に反映しない。 4 集団内で緊張しない。	
	場所への緊張	2	2	1	2	3	1 特定の場所や慣れない場所に緊張し、行動に反映する。 2 特定の場所や慣れない場所に緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 特定の場所や慣れない場所に緊張するが、行動に反映しない。 4 どのような場所でも緊張しない。	
目的意識	想起	2	2	2	2	3	1 体験（成功・失敗・懲罰）を思い出せない。 2 教師の支援により体験を振り返ることができるが、活動に生かすことができない。 3 教師の支援により体験を振り返ったり、活動に生かしたりすることができる。 4 自ら体験を生かすことができる。	
	学習目的	2	2	2	2	3	1 教師の支援を受けても、目的や楽しみを見出すことができない。 2 教師の支援により、活動中あるいは活動後の楽しみを見出すことができる。 3 教師の支援により、目的や楽しみを見出すことができる。 4 自ら目的や楽しみを見出すことができる。	
	生活	3	3	3	3	3	1 学習内容にかかわる生活体験やニーズがない。 2 学習内容にかかわる生活体験やニーズが以前にある。 3 学習内容にかかわる生活体験やニーズがある。 4 学習内容にかかわる生活体験やニーズがあり、自ら問題意識をもっている。	
意味付け・価値付け	生活への意味付け	2	2	2	2	2	1 教師の支援があっても、生活とのかかわりを意識することができない。 2 教師の支援により生活とのかかわりを意識し、それに応じた行動をすることができる。 3 自ら生活とのかかわりを意識することができるが、そぐわなかったり活動が伴わなかったりする。 4 自ら生活とのかかわりを意識し、それに応じた活動や用意をすることができる。	
	活動への意味付け	2	2	2	2	3	1 教師の支援による結果予測を理解することができない。 2 教師の支援による結果予測に応じて、活動することができる。 3 自ら結果を予測するが、そぐわなかったり活動が伴わなかったりする。 4 自ら結果を予測し、それに応じた活動や用意をすることができる。	
	活動への価値付け	1	2	1	1	2	1 教師の支援により、一つ一つの活動に取り組むことができる。 2 教師の支援により、次なる活動を念頭に置きながら、目の前の活動に取り組むことができる。 3 教師の支援により、複数の活動への価値を感じながら取り組むことができる。 4 自ら、複数の活動を価値付けて取り組むことができる。	
学習方法	問題対応	活動目的	2	2	2	2	2	1 教師の支援を受けても、目的を感じながら活動できない。 2 教師の支援により、目的を感じながら活動できる。 3 教師の支援により、目的を見つけて活動できる。 4 目的から活動を自ら見つけ、持続させながら課題に取り組むことができる。
		確認	2	2	2	2	2	1 しばしば不注意による間違いや失敗がある。 2 時折不注意によるまちがいや失敗がある。 3 不注意による間違いや失敗があるが、本質的なものに支障がない。 4 不注意による間違いや失敗がない。
		手がかりの拡散	2	2	2	2	2	1 教師の支援を受けても、別の方法に取り組むことができない。 2 教師の支援により、別の方法に取り組むことができる。 3 教師の支援により様々な方法を検討し、その中の一つに取り組むことができる。 4 自ら様々な方法を検討し、多様な方法に取り組むことができる。
		手がかりの収束	1	1	1	1	2	1 教師の支援により、よりよい手がかりを受け入れることができる。 2 教師の支援により2つの手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。 3 教師の支援により様々な手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。 4 自ら様々な手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。
		興味	2	3	3	3	3	1 興味・関心のあるものが見当たらない。 2 学習活動以外に有効な興味・関心がある。 3 学習活動に有効な興味・関心がある。 4 学習活動に有効な興味・関心があり、活用したいという意識がある。
	集団との関わり	感情の伝達・理解	2	2	3	2	3	1 文脈や態度を意識した行動（話すことを含む）をとることができない。 2 誇張した文脈や態度のいずれかから感情を理解し、行動（話すことを含む）をとることができる。 3 文脈や態度のいずれかから感情を理解し、行動（話すことを含む）をとることができる。 4 文脈や態度を予測し、行動（話すことを含む）をとることができる。
		協調性	3	3	3	3	3	1 一人での活動に固執する。 2 教師と一緒に活動する。 3 定型的あるいは、教師の支援により他者との活動をする。 4 他者の状況を考え活動と共にし、場合によっては協力する。
		遊び	3	3	2	3	3	1 気に入った物のみを使って遊ぶが、固執したりなめたりし、奇異にみえる。 2 気に入った物のみで、使用目的に合わせて遊ぶ。 3 教師等から提示された物を使って遊ぶ。 4 自分から様々なものに働きかけて遊ぶ。
		ゲーム	3	3	3	3	3	1 教師の支援を受けて、ゲームに参加することができる。 2 教師の支援を受けてゲームに参加し、勝ちを喜ぶことができる。 3 教師の支援を受けて、ゲームの勝敗を意識して参加することができる。 4 ゲームの勝敗を意識して参加し、敗れでも価値を見出すことができる。
		賛辞	3	3	3	3	3	1 他者のよさを認めることができない。 2 教師の支援により、他者のよさに拍手をおくる。 3 周囲の状況をとらえて、他者のよさに拍手をおくる。 4 自ら拍手あるいは、賛辞をおくる。

- 小学校学習指導要領改訂の経緯及び基本方針を受け、国語で育成を目指す資質・能力は、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」とある。国語科で身に付ける言語能力は、全ての学習の基盤となり、生活においても必要不可欠な能力である。またこれらの力の内、(話すこと・聞くこと)の力については、人間の多様性や様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことにつながる。例えば子どもたちは、どんな順序で話せば相手に伝わるか、相手はどんな考えをもっていて、自分はそれに対してどう思うのかといった見方・考え方を働かせて他者と関わり、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりすることで、他者と円満な関係を築き、様々な困難場面で、周りの支援を受けながら、社会的自立していくことができる。以上のことから、自分たちが必要とする情報を他者から聞き出す学習をすることで、相手の立場に立って考えるとどんな話し方をするとよいか、必要な情報をいかに正確に聞きとり生かすかといった視点で物事を考える本教材は、子どもたちがこれまでの経験や推測を基に見方・考え方を働かせ、必要感をもって学習に取り組むことで、自己の資質・能力を高めていくために適した教材であると考える。
- 本領域の学習は、生活単元学習「校内合宿をしよう」の内容と関連している。課題を解決するために様々な要素があるため、学習する上で困難さを感じる領域でもある。そこで、先に述べた子どもたちの実態に応じて、個別の目標を設定し、子どもにあった学習材や学習形態を工夫することで、子ども自身が自己の学びの状況を捉えながら、段階的に学習を進められるようにしたい。また、子どもたちが、主体的に友達とかかわり合いながら学びを深めることができるよう、生活単元学習や実生活と結びつく学習課題の設定やかかわりが必要不可欠な学習展開にしたい。以上のように、子どもたちの実態と「話すこと・聞くこと」の系統性を大切にしながら、単元を通して、実生活と結びつける振り返りを繰り返すことにより、課題を自分事として捉え、連続的な学びへとつながっていくようにしたい。

2 復興教育(3つの教育的価値)との関連

- かかわる「⑨自分と地域社会」とのかかわり

相手の立場に立って話をしたり質問をして聞いたりすることで、相手意識をもって人と関わることを学んだり、困ったときに支えを求めることについて学んだりする。

Ⅲ 単元の指導構想

1 本単元の目標

子ども	本単元にかかわる実態	本単元の目標 ①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性	実生活とのつながり
A	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの言葉をゆっくり話す。 ・緊張や疲れて吃音が出るが、最後まで話そうとする。 ・定型のあるいは教師の支援により他者との活動をする。 ・活動には教師の支援が常に必要である。 ・正しく母音を発音する。 	① 正しく清音を発音することができる。	楽しいことやおもしろいことを、近くにいる先生や上級生に正しく伝え、同じ気持ちを共有することができる。
		② 場に合った声の大きさを考えて話すことができる。	
		③ 相手に分かりやすい話し方ができるように、発音に気を付けて話そうとする。	
B	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことを質問する。 ・語彙が少なく、伝えたい思いを文章にして話すことができない。 ・言葉の発音(特にさ行)が不明瞭 ・定期的に養育センターで言語訓練をしている。話す機会を積み重ねることで、訓練したことを意識して話すようになる。 	① 正しい口形で単語をゆっくり話すことができる。	学級や学団の学習の際に、疑問に思ったことを短く質問し、短時間で解決することができる。
		② 相手に応じて、声の大きさや話す速さを工夫して話すことができる。	
		③ 話したいことが相手に伝わるように、話す順番や話し方の工夫を主体的に考えようとしている。	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に文の組み立てを考えて発表することができる。 ・困難場面で緊張し、行動に反映する。 ・他者の支援により、一つ一つの活動に取り組むことができる ・短時間であれば、内容に注意して話を聞くことができる。 ・たくさんの情報を整理して聞くことができない。 ・話の内容を何度も繰り返し聞く。 ・話の内容を勘違いして聞いていることがある。 	① 大事なことを、メモをとりながら聞くことができる。	日常生活の中の大事な情報を聞きもらさないように聞くことで、活動の見直しをもつことができ、安心して生活することができる。
		② 話を聞いて大まかな内容を捉えることができる。	
		③ 大事なことを聞きもらさないように、メモをとるなど工夫して聞こうとしている。	
D	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の支援により、学習の目的を感じて活動することができる。 ・丁寧な言葉を使って話す経験が少ない。 ・人が話している途中で質問する。 ・自分の思いや気持ちを自由に話す。 ・相手意識が低いため、気持ちと声の大きさが比例している。 ・口の開きが小さいため、正しく発音できていない。 	① 声の大きさを5段階ほどに分けて発音することができる。丁寧な言葉と普通の言葉の違いが分かる。	自分の気持ちや不満に思っていることが、相手に伝わり、気持ちよく生活することができる。
		② 話す順序を考えて、相手に分かりやすく話すことができる。	
		③ 自分が考えた文章が相手に伝わるように話し方を工夫しようとしている。	
E	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の支援により、学習の目的を感じて活動することができる。 ・時間があれば、頭の中で文章を組み立てて話すことができる。 ・友達に教えたり協力したりすることで、困難に感じることも意欲的に活動することができる。 ・指示語を使って話すことが多い。 ・複数の話を整理して聞くことが難しい。 	① 日常よく使われる敬語を話すことができる。	学団での授業の際に、自分の考えを友達や先生に分かりやすく伝えることができる。
		② 相手に応じて、声の大きさや話す速さを工夫して話すことができる。話す順序を考えて、相手に分かりやすく話すことができる。	
		③ 自分が考えた文章が相手に伝わるように話し方を工夫しようとしている。	

2 学びのつながり

子どもたちはこれまでに、その子どもの実態に応じた内容や話し方で自分の体験を話したり、友達の話聞き、興味のあることを質問したりする学習をしてきた。その際、最後まで話を聞いてもらえる嬉しいことや、話を聞いてもらうためにはよい話し方があること、話を聞くことは自分にとって有益であることなどを感覚的に掴んでいる。

本単元では、「よい話し方や聞き方がありそうだ」といった抽象的な子どもたちの見方・考え方をより具体的にし、話す順序や話す声の大きさ・速さ、聞く際にどの言葉に注目するのかといった見方・考え方を働かせて学習を展開していく。

子どもたちは、今後、本単元で身に付けた資質・能力を、分からないことを質問する際や、自分が話したいことを他者に伝える際に活用し、自己の学習や生活をよりよいものにしていくと考える。

3 単元の指導計画（6時間）本時は第5時

時間	A	B	C	D	E
	各時間の学習内容				
	働かせる見方・考え方 ※研究に関わる手立て				
	評価規準 及び【評価方法】				
1	準備をしない状態で電話をかけた経験に基づき、電話をするために必要な方や準備を考慮し、学習計画を立てる。 ※手立て2-① 校内合同と関連させ、単元を貫く課題意識を醸成する。 両親が電話で話すとき、初めに自分の名前を言っていた。いつもと話し方が違うのはなぜだろう。 電話で、知らない人と良好なコミュニケーションをとるためには、話し方の工夫が必要であることに気付く。【発言（思・判・表・表）】	家族は、分らないことがあると、近所の人に電話をして聞いている。何かを書きながら話していた。 電話で必要な情報を聞くためには、話し方の工夫と聞き方の工夫の両方が必要であることに気付く【発言（思・判・表）】	録音声を聞き、相手が見えないときの聞き方の工夫を考える。 最後まで聞かないと、大事なことを聞き逃してしまふ。忘れないために書いておこう。 相手が見えないときの聞き方の工夫は、最後まで聞くこと、簡単にメモをとることが分る。【発言（知・技）】	教師や友達と共に、電話での会話の役割演技をし、電話をかける際の基本的な会話の仕方について考える。（児童C：電話をかける、児童E：電話を受ける） 電話での会話には、共通点がある。【発表（知・技）】	電話を受ける際の受け手の反応も意識しながら、質問する内容と文章を考える。 聞きたいことがしっかり伝わらないと、聞き返されることがある。 電話を受け手の反応も意識しながら、質問する内容と文章を考えることができる。【発言（思・判・表）】
2	電話で要件を伝えたり、質問したりするための準備をする。 教師と一緒に校務室の先生にインタビューし、話し方の工夫について考える。 朝、校務室の先生が電話で話していた。相手が見えないのに、笑顔なのはなぜだろう。 電話での話し方の工夫は、言葉をはっきり話すこと、場面に合わせて声の大きさを変えることであることが分る。【発言（知・技）】	発音しにくい音や言葉を探し、それらの言葉はどのような話し方に伝わりやすいか、話し方の工夫について考える。 言葉が伝わるのと伝わりなるときは、何が違うのだろう。 清音（さ行）、濁音、促音、長音等、発音が難しい言葉を相手に伝えるための話し方の工夫は、正しい口形でゆとりよく話すことであることが分る。【発言（知・技）】	録音声を聞き、メモをとりながら大事なことを聞き取る。 忘れないように、メモをとっておこう。 短い言葉を取り、メモをとることができる。【学習シート（知・技）】	電話をかける際の共通点をまとめ、はじめと終わりに話すことを考える。 自分の事を話したり、おれを言ったりするとよさそうだ。 電話をかける際の始めと終わりの内容を考えることができる。【発言（思・判・表）】	電話を受ける際の受け手の反応も意識しながら、質問する内容と文章を考える。 聞きたいことがしっかり伝わらないと、聞き返されることがある。 電話を受け手の反応も意識しながら、質問する内容と文章を考えることができる。【発言（思・判・表）】
3	電話で要件を伝えたり、質問したりするための準備をする。 電話での会話に合った声の大きさについて考える。親しい人に電話をかけ、正しい口形と場に合った声の大きさを意識して短い文を話す。 〇〇さんの声の大きさは聞き取りやすい。 口形を意識して清音の一部を正しく発音し、電話での会話に合った声の大きさを話すことができる。【発言（知・技）】	話し方の工夫を意識しながら、短い文を話す。親しい人に電話をかけ、自分の話が相手に伝わるかどうかを確認する。 言語訓練で練習した、口の開きと下の動きを意識して話してみよう。 口形や下の動きを意識しながら、清音（さ行）、濁音、促音、長音等、発音が難しい言葉について工夫して話すことができる。【発言（知・技）】	録音声を聞き、メモをとる。大事なことを聞き取り、聞き逃したときは、聞き返すと良さそうだ。 質問の答えを聞いて、大事なことを聞き取ることができる。【学習シート（知・技）】	教師が用意した台本を基に、A児に話し方の模範を示す。 大事な言葉を強調して話さないと伝わらない。 場面に合った声の大きさと正しい発音で話すことができる。【発表（思・判・表）】	教師が用意した台本を基に、B児に話し方の模範を示す。 大事な言葉は強調して話すと分かりやすい。 相手に応じて、声の大きさを話すことができる。【発言（思・判・表）】
4	模範電話をして、うまくいったことを出し合い、その理由を考える。 教師が用意した台本を基に、D児、E児と役割演技をし、話し方の工夫を意識しながら話す。 発音が難しい言葉はゆとりよく話し、友達（B児）が教えてくれた。 指定された言葉の清音を正しく発音し、電話での会話に合った声の大きさを話すことができる。【発表（知・表）】	教師が用意した台本を基に、C児、E児と役割演技をし、話し方の工夫を意識しながら話す。 伝わりなるときは、言い換えたり、ゆとりよく話したりと伝わる。 電話の相手に伝わるような話し方の工夫を考えることができる。【発表（思・判・表）】	教師が用意した台本を基に、A児に話し方の模範を示す。 大事な言葉は強調して話すと分かりやすい。 相手に応じて、声の大きさを話すことができる。【発言（思・判・表）】	教師が用意した台本を基に、B児に話し方の模範を示す。 大事な言葉は強調して話すと分かりやすい。 相手に応じて、声の大きさを話すことができる。【発言（思・判・表）】	教師が用意した台本を基に、B児に話し方の模範を示す。 大事な言葉は強調して話すと分かりやすい。 相手に応じて、声の大きさを話すことができる。【発言（思・判・表）】
5 本時	施設に電話をかけ、要件を正しく伝える必要情報を聞く。 D児が考えた台本を基に、D児と役割演技をし、話し方の工夫を意識しながら話す。 発音が難しい言葉はゆとりよく話し、友達（児童B）が教えてくれた。 評価規準は本時の指導計画に記載	E児が考えた台本を基に、C児、E児と役割演技をし、話し方の工夫を意識しながら話す。 伝わりなるときは、言い換えたり、ゆとりよく話したりと伝わる。 評価規準は本時の指導計画に記載	本児が考えた台本を基に、A児に話し方の模範を示す。 大事な言葉は強調して話すと分かりやすい。 評価規準は本時の指導計画に記載	本児が考えた台本を基に、B児に話し方の模範を示す。 大事な言葉は強調して話すと分かりやすい。 評価規準は本時の指導計画に記載	本児が考えた台本を基に、B児に話し方の模範を示す。 大事な言葉は強調して話すと分かりやすい。 評価規準は本時の指導計画に記載
6	聞き取った情報を学団の友達に報告をする。 聞き取った情報を書いた、短い文を話す。 口を大きく開けて、ゆとりよく話しと伝わった。 明確な発音で、短い文を話すことができる。【発言（知・技）】	他の字級の情報をメモを取りながら聞く。 聞き方の工夫を生かして聞き取る。 他の字級が調べた内容を正しく聞き取り、記録することができる。【学習シート（思・判・表）】	他の字級で自分と同じ役割をした友達とどんなことに気を付けて質問を考えたのか、交流する。 自分の気を付けた部分と共通するところがあるだろうか。 相手の話を予想しながら聞くことが分かる。【発言（知・技）】	他の字級で自分と同じ役割をした友達とどんなことに気を付けて質問を考えたのか、交流する。 自分の気を付けた部分と共通するところがあるだろうか。 相手の話を予想しながら聞くことが分かる。【発言（知・技）】	他の字級で自分と同じ役割をした友達とどんなことに気を付けて質問を考えたのか、交流する。 自分の気を付けた部分と共通するところがあるだろうか。 相手の話を予想しながら聞くことが分かる。【発言（知・技）】

